

Badudu-Zain (1994) : cacat suara dan tidak menguasai nada. この説明からだ、なにか発声・声の抑揚に関わる障害であるかのように考えられる。一方、コーネル大出版第3版は、unsociable とする。上とだいぶ様子が違う。

もう一つの資料は、インドネシア障害者芸術団の踊りの公演「アジアの嵐」(11/13 東京芸術劇場中ホール)を見に行った家内が貰ってきた Yayasan G.R. Siswa Terpadu のパンフレット。ここに para penyandang cacat dari berbagai kecacatan: tunanetra, tunarungu, tunagrahita (keterbelakangan), tunadaksa (cacat tubuh), tunalaras (gangguan emosi) と列挙する箇所がある。これだと「知的障害」「身体障害」に並ぶ「情緒障害」だろう。

本項は、そういう様々な障害をもつ児童の教育に実際に携わっている財団のこのパンフレットを信用することとして、tunalaras (情緒障害) とすることにする。[Sg 11.15.97]

## tunggal & jamak (単数と複数)

文法用語 tunggal 「単数」、jamak 「複数」である。

インドネシア語は、数という文法現象を持たないから、英語などと違って、名詞や代名詞や動詞の単数形、複数形を学んだりすることがない。

そこで、単数・複数というこんな単語に遭遇することもほとんどないのだが、インドネシア語文法のなかでもただ一カ所だけ、これがまともに出てくる箇所がある。

それが人称代名詞のところである。それまで全然出てこなかったこの tunggal : jamak が、そこにいわば突如として顔を見せて、「私」は単数である、「私達」は複数であるなどと分類して見せて、そしてまた消えてゆくのである。

この単数・複数は意味上のことなので、例えば、saya の意味が「私」、kami が「私

ども」であると判れば、「私」は単数で、「私ども」は複数であるというような説明をして貰っても、その用語 tunggal, jamak を覚える機会になるぐらいで、大して有り難いこともない。

必要なのは、例えば、二人称単数とは、話し相手が自分のことしか想起しない語であり、二人称複数とは話し相手が自分とだれか(話し手と了解のついている範囲の)を想起する語だ、というような説明であり、また：

だから、相手に対して、二人称単数とされる人称代名詞を使うことは、相手の「自分」をこちらの意のままに使うこと、になる。そういう人間関係にあるのならそれも構わないが、そうでなければ、人の懐にぐいと手をつっ込むようなことになる。二人称複数「自分とだれか」だから、まだまし。このプラスされる「だれか」が実際はゼロであることはお互いに了解済みのことだけれども、形式としては「自分とだれか」相手もじかに「自分」を掴まれたという気はしない、というような解説である。

ここで私の考える人称代名詞の体系のイラスト。



インターアクティブな仕掛けもある HP の Album Ilustrasi の sis kg.persona もぜひご覧下さい。

更に、本当はもっと相手の「自分」から

距離をとって、例えば「お父さん」というような言葉を使って、相手自身に「自分」のことかと察してもらう一層間接的な形で相手の「自分」には接する方がいい、というような説明も加える。

ところで、上で二人称単数と言ったのは *kau* のこと、二人称複数と言ったのは *kamu* のこと。そして「お父さん」は勿論 *Bapak* のことである。[Sg 1994.9.4]

### tuntas (徹底的)

前項で「徹底的にしなければならない」と書いて思いついたのがこれ。「新聞を読む」には, *tidak melakukannya dengan tuntas* (徹底的にそれを行うていない) の 1 例がある。

辞書を開いてみると、末永『インドネシア語辞典』(1991)は「注ぎ終わる、もう流れない」と説明する。上に挙げたような用例を前にしてこれではお手上げ。その語釈は、KBI(1988)の語釈の 1, *habis* (*setelah dicurahkan*), *tidak mengalir lagi* を訳出し、その 2, *selesai*, *menyeluruh*, *sempurna sama sekali* を切り捨てた形になっている。1 の訳としては「注ぎ尽くす、涸れ果てる」くらいか。

谷口『インドネシア・日本語辞典』(1989)は、「厳しく」だが、用例として *memeriksa dengan tuntas* (徹底的に調べる) があるのでこれが役立つ。

しかしともかく「徹底的」は恋愛小説の語彙ではない。そういうわけで、*Maria A.Sardjono, Angsa Liar* の 2 例は「徹底的」というよりは、こう訳することになる。 *harap... diselesaikan dengan tuntas* (あなた方二人の問題は--- 後腐れの無いようにきっぱり決着を付けてほしい), *belum memaafkannya secara tuntas* (まだ完全には許してくれていない) など。[Sg 1994.8.14]

### tustel (写真機)

81年にウジュン・パンダンを訪れた時のこと。普通のカメラなら *tustel*, *kamera* と呼ぶのは「ビデオ・カメラ」のこと、とスディ先生の親戚の方(複数)に説明されたことがありました。

しかし、これはおそらくは極くごく局地的な呼び方だったのだらうと思います。その時、*Sakuma* 先生もそんな違いがあるのかと怪しんでおられましたし、バンドンにいた時に何人かに尋ねても、そんな違いはない(両者ともカメラ)という返事が返って来ましたから。[SH 6.7.98]

\*\*\*

*tustel* (オランダ語 (foto)testel) は、日本語の「写真機」みたいなものではなからうか。例えば私の場合、普通のカメラを「写真機」と呼ぶことがないわけではない。もしかしたらその方が多いかもしれない。しかし、ビデオカメラを「写真機」と呼んだりはない。スディ先生の親戚方の言わんとしたことも、これに近いようなことだったのでと思う。[Sg 6.9.98]

### tutup mulut (口をつぐむ)

*menutup mata* することを拒否してデモで逮捕された学生活動家たちが、今度は法廷で *tutup mulut* する作戦を展開、というお話。

Ke-44 mahasiswa terdakwa sengaja memplester mulut mereka.

この「言わ猿作戦」を選んだ被告の 44 名の学生たちは、口に絆創膏を張って、不当なデモ規制法への抗議の意志を表明したとというのが上の例文。

この「言わ猿作戦」、記事見出しで *aksi tutup mulut*, 本文では *aksi bisu* ("FPPI LANCARKAN AKSI TUTUP MULUT DI PENGADILAN", *SiaR*, 2/3/99)。[Sg 3.3.99]

### tu wa ga pat ma (ひふみよいつ)